

平成28年度 新学術領域研究（研究領域提案型）中間評価結果（所見）

領域番号	1601	領域略称名	古代アメリカ文明
研究領域名	古代アメリカの比較文明論		
研究期間	平成26年度～平成30年度		
領域代表者名 (所属等)	青山 和夫 (茨城大学・人文学部・教授)		
領域代表者 からの報告	<p>(1) 研究領域の目的及び意義</p> <p>本領域研究の目的は、①精密な自然科学的年代測定や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、②高精度の編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、③植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデスの文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を検証することである。本領域研究は、従来の世界史研究で軽視されてきた中米メソアメリカと南米アンデスという、古代アメリカの二大文明について、考古学、歴史学、文化人類学等の異なる分野の人文科学と自然科学の多様な研究者が連携して新たな視点や手法による共同研究を推進する。つまり古代アメリカ各地の地域・時代毎の特性や詳細な社会変動を通時的に比較研究して、古代アメリカの比較文明論の新たな展開を目指す我が国初の実証的な文理融合の通史研究であり、世界的にも斬新な研究となることが期待される。メソアメリカ文明とアンデス文明を正しく理解することにより、旧大陸のいわゆる「四大文明」に基づき形成されてきた一般的な文明観を大幅に修正できる。本研究は、世界の諸文明の共通性と多様性を再認識し、バランスの取れた「真の世界史」・「真の文明史」の構築に大きく貢献する。中堅・若手研究者を中心とする本研究の推進は、古代アメリカの比較文明論に関する我が国の学術水準を国際的に向上・強化し、革新的な人材育成につながる。</p>		
	<p>(2) 研究成果の概要</p> <p>メソアメリカ文明とアンデス文明の諸社会でそれぞれ共有された文化実践に関する類似点と差異および社会変化の過程を比較して、両文明の特性を検討した。本領域では、環境の自然変動の古代社会へのインパクトといった単線的な因果性だけを想定せず、遺跡での植生環境や植物利用の変遷史データを通して環境の自然・人為変動と文明の盛衰に関する考古資料を正確な時間軸上で並べて環境と文明の関係を実証的に比較研究した。中南米の先住民文化を「古代文明の資源化」の結果と捉え、それを分析する枠組みとして、1) 資源化の政治学、2) 資源化の解釈学、3) 資源の想像の3項目を考案した。グアテマラの湖沼調査で極めて良好な年縞堆積物を採取し、年輪年代法により年縞の暦年代を世界で初めて決定できた。セイバル遺跡の調査によって、共同体の公共祭祀及び公共祭祀建築を建設する共同作業によって社会的な結束を固め、マヤ文明が発展したことが明らかになった。セイバル遺跡周辺とペルーのナスカ台地では航空測量を実施して、新たに遺構を検出した。ナスカでは、ラクダ科動物の地上絵や「舌を伸ばした動物」の地上絵を登録した。本研究領域における文明論をより明確にし、領域全体として研究項目間の有機的な結合を生み出すために、1) メソアメリカ文明とアンデス文明の比較、2) 古代アメリカ文明史と環境史の比較、3) 古代アメリカ文明と現代の比較、という3つの分析枠組みで比較することを確認した。基礎的なデータを提供・分析してその成果を比較研究するための土台を築き上げて、古代アメリカの比較文明論に関する共同研究を当初計画の通りに達成することができた。</p>		

<p>科学研究費補助金審査部会 における所見</p>	<p>A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)</p>
	<p>本研究領域は、調査に多大な時間と労力を要する領域にもかかわらず、短期間のうちに多くの成果を世界に発信しており、高く評価できる。また、審査結果の所見で指摘された事項に真摯に対応し、研究推進において一層の連携を図るための組織運営上の工夫が見られる。</p> <p>研究成果として、研究項目 A01 の理化学的分野での成果に加えて、研究項目 A02、A03 によるセイバル遺跡やナスカでの考古学的成果も重要である。特に (1) 年縞堆積物を用い、年輪年代法による暦年代を確定したこと、(2) 世界最高水準の年輪撮像システムを確立させたこと、(3) 航空レーザー測量と赤色立体図によって、広範囲の遺跡確認が可能になったこと、(4) 遺跡出土のワランゴ材の年輪解析を行う可能性を開いたことなどは注目に値する。また、本領域研究に従事する若手研究者が、多くの成果を発表し、研究職に就くなど、若手研究者育成に顕著な成果が見られた。</p> <p>一方で、広い地域で調査を行っているので、出土遺物の整理や収集したサンプルの理化学的分析の時間等に十分に配慮したスケジュール管理が肝要である。古代アメリカの二大文明についての考古学的調査はそれぞれ順調に進行しているので、研究項目 A04 が比較の視点をさらに強く打ち出すことが望まれる。他の計画研究との一層の連携を図り、新たな文明史観の提唱のために考古学と文化人類学の新たな連携をさらに模索してほしい。</p>